

平成22年9月1日

1. 課題

2 食農教育に関する機会提供のための仕組みづくり

特定の農業・農村体験に限られる都市部の子どもたちに、地域外の農業を体験する機会の提供を行うことで、農業への理解促進はもとより、保護者との関係が地域に開かれたJA、JAファン作りに結びつけます。

2. 研究事例（詳細はパワーポイントや別紙資料で説明）

(1) 事例①：JAあつぎ「夏休み収穫体験ツアー」の取り組み

JAあつぎ（神奈川県）で取り組む地域外のJA食農教育活動。管内小学校4～6年生を対象に、食農教育、仲間づくり、子供たちの自立心と社会性の養成を目的とする。加えて保護者をJAファンとし、准組合員化も目的にて、長野県飯田市（JA上伊那）において実施。

(2) 類似事例②：JAいせはら「夏休み子ども村」の取り組み

JAいせはら（神奈川県）で25年に亘って取り組む地域外でのJA食農教育活動。管内小学校4～6年生を対象に、群馬県片品村他において実施している。JA職員の新人教育の面も期待されている。

(3) 事例③：JAグループ群馬「ちびっこ農学博士」の取り組み

JAグループ群馬で取り組む県内交流型のJA食農教育活動。県内各地域の小学校3～6年生を対象に募集、通年でのJA食農教育体験を通じて、食と農、いのちの大切さを教える取り組み。主なプログラムは春にバケツ稲づくりと野菜苗の配布で栽培。その収穫した野菜を持ち寄る夏季プログラムは県内片品村において実施。

(4) 事例④：JA会津みなみ「子どもタウンJAふれあいの旅」の取り組み

農村から都会へ、JA会津みなみ（福島県）の取り組むJA食農教育。管内小学校4～6年生を対象に「子どもタウン」を実施。南会津の野菜を扱う埼玉県内のスーパーマーケット店頭で対面販売や、地元野菜のおいしさをPRする体験をする。子ども達は流通の仕組みや地元農産物への理解を深め、産直事業に一役かった。

(5) 類似事例⑤：JAふらの「ふらのKID'S農業塾」の取組み

農村から都会へ、JAふらの（北海道）の食農教育・後継者育成の活動。管内小学校4～中学1年生の農家の子弟を対象に、コープかながわ片倉店において、富良野産の野菜の販売体験を経験する機会を提供。これは、北海道農業を支える家族農業の大切さを教え、担い手対策として有効な活動となっている。

3. 新たに送出しに取組むための要領、手順（検討案）

段階	時期	実施項目	支援相談窓口	事例①
		ポイント		
計画		① JA食農教育プランへの都市農村交流の盛り込み	中央会	
		「取組み事項」の一項目として、具体的な目標の一つとして記載、追記する。（参照「JA食農教育プラン策定の手引き」）		
	12ヶ月	② 計画の策定 所管部署・担当者の決定	都市農村交流協議会 旅行センター・受入JA	
		趣旨、プログラム・日程・予算等を検討し、直接的・間接的効果についても、客観的に整理。無理のない計画とすることも必要。併せて受入れ先JA等の選定・依頼時期もこの時期。		
6ヶ月前	③ 支援部署・組織・支援者の選定と依頼。講演等の打診告知方法の検討	JA内、組合員組織、 学校関係・組織等 地域メディア		
	計画概要、（募集広告）を持って、JA所管部署から要請をする。特に、JA内の理解については、最も重要である。			
準備	3ヶ月前	④ 実施計画の再確認（最終）	旅行センター・受入JA	P①～④
		最終計画（日程・プログラム・費用・進め方）を決定		
		⑤ 安全管理と看護体制の配置	旅行会社等 中央会から厚生連等	P⑥～⑫
		安全・事故防止、緊急対応策については、企画実施する旅行会社とともに、受入れ側と詰める。また厚生連や現地診療施設とも打合せをする。		
		⑥ 広報、JA内理解浸透		
		募集媒体の作成、JA広報誌への記載、JA基幹会議等における周知など。		
	⑦ 地域住民や学校への協力依頼	中央会		

段階	時期	実施項目	支援相談窓口	事例①	
		ポイント			
	2ヶ月前	教育委員会や自治会等にも協力要請する。			
		⑧参加者受付			
		ご両親がJA窓口で直接出かけてもらって申し込みを受けることがよい。			
		⑨下見と運営体制の点検	都市農村交流協議会 旅行センター、受入れ JA		
	責任者・実行担当者は現地入りし参加者規模での、運営面、危険予防の観点で問題がないか点検します。課題があれば改善します。				
	1ヶ月前	⑩保護者への説明	旅行センター	P⑳	
		説明会にはスケジュール、添乗職員の紹介や緊急時の対応方針等のもとより、JA食農教育の取組みについても説明することがよい。			
		⑪添乗職員の役割の確認	旅行センター	P⑰～⑱	
約1～2週間前に各職員の役割分担を相互に確認。渉外担当職員、営農担当職員等、横断的な体制で、相応の体力が必要なことから、且つ若い職員が担当することがよい。					
実施	⑫添乗職員連絡報告	旅行センター	P⑨		
	予期しない事が発生することも想定し、健康状態も含めた情報の共有と、責任者は問題があれば解決策を決め実行します。都度もしくは、就寝後。くれぐれもJA職員同士の懇親会の場としない。				
実施後の取組評価	1ヶ月程	⑬アンケート		P(21～23)	
		子ども達からの感想(アンケート)の収集。効果の分析し広報に活用する。また、帰宅後の農業体験の感想文コンクールへの応募を保護者へ説明			
	⑭写真展示		P②		
	事後、各支店に写真を展示し、保護者に来店してもらう。事後のJAとの関係づくりに進展。渉外活動、営農活動時による発展。				
	⑮効果測定、広報、次年度への繋がり				
	アンケートの分析、効果測定、広報を組織内外に行う。協力を頂いた行政・学校機関には御礼と報告を行う。				
	⑯受け地JAとの交流検討				
	JA間交流や組合員組織相互での都市農村交流のきっかけとして検討してみてもどうか。				

以上